

主な災害調査

1 台風9号で被災した国道246号須川橋現地調査

2010年(平成22年)9月8日、台風9号に伴う静岡県須川の増水により護岸が流失し、一般国道246号須川橋(鋼上路アーチ橋)の支持地盤周辺が浸食を受け崩落した。道路構造物管理室では、橋の構造安全性の評価や応急対策検討に関する技術支援のため、現地で調査を行った。その結果、上部構造の損傷は認められない一方で、橋全体の安定に重要な基礎周辺地山が崩落し、露出面には未固結堆積層が確認されたことから、崩落面の保護、盛土等による地山安定工、今後の降雨や河川増水に対する浸食抑止策を優先的に実施すべき状況が確認された。

道路研究部 道路構造物管理研究室長 玉越 隆史、研究官 北村 岳伸、野村 文彦

2 2010年2月チリ地震被害調査と技術支援

南米チリで2010年2月27日に発生した大地震に対して、土木学会等4学会による合同調査団のメンバーとして、3月27日～4月7日の間、現地に職員を派遣した。チリ国公共事業省道路局と合同で、10橋を越える落橋被害を含む合計31箇所46橋の被害調査を実施した。調査団からは被害程度に応じた通行規制の判断や復旧方法に関する我が国の経験技術、技術資料をもとに助言を行った。また、10月にはチリ公共事業省によって橋梁の耐震基準の一部が改定されたが、ここには調査団が提供した我が国の道路橋の耐震基準の規定が導入されるなど大きく貢献した。

危機管理技術研究センター 地震災害研究官 運上 茂樹